



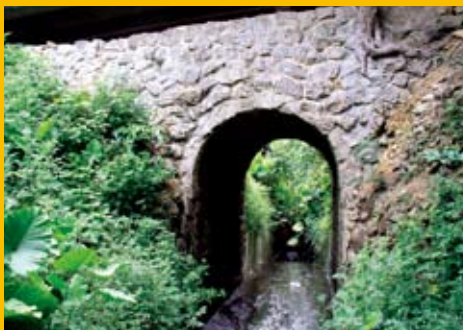
うるま市の文化財 シリーズ⑥

う ふた びら 大田坂



今から約200年ほど前にあかばんだ掟、玉城親雲上、上門小ビニーの三者の企画と設計で施工され、地元や近隣の住民から資材の協力を得て完成したと伝えられています。幅2～3m、全長300mにおよび、石灰岩を敷き詰めた石畳で、首里王府から各間切間の伝達に利用された道で、宿道(現在の国道にあたる)としても利用された歴史の道です。

ばし ガーラ砦



ガーラ砦は、昭和3年、天皇即位の大礼の際に、饒辺に住む学童が与勝尋常高等小学校へ通う通学路として、ガーラの山林を切り通して長い年月をかけ建設された石橋です。

石橋は、高さ5m、幅2m、横断延長5mの石だけでアーチ型に造られており、その上から通行人等が通って重圧をかければかけるほど石橋がしまってますます固くなっていくという橋です。近代の石造建設物のすばらしさが建築研究者から見直されています。

文化課 ☎978-7245



うるま市出身の青年海外協力隊
平成19年度3次隊・伊良波藍里
活動国 ベナン共和国

青年海外協力隊とは…

海外で開発途上国の人々とともに地域の社会や経済の発展に貢献するこの活動を行っています。

うるま市のみなさん、こんにちは！
2008年の1月から東にナイジェリア、西にトーゴ、北にニジェール、ブルキナファソ、南はギニア湾に囲まれた、西アフリカのベナンという国で青年海外協力隊として活動している伊良波藍里と申します。コト又漁港で働く女性の生活の質の向上を目的に、日本政府の草の根無償資金協力によって、建設された「女性の家」の全体的な運営管理のお手伝いをしています。とは言っても、4月に竣工されたから加工品製造が再開されたのが7月、公衆トイレ事業が供用されたのが9月、託児所が始まったのが10月。沖縄のよんなく文化にさらに輪をかけたベナン人のよんなくよんなく気質に加えて、文化の違いによる行き違い、次々と巻き起こる予想できない問題(例えば、加工製品が消えたり、トイレに新聞紙を流し

て詰まらせる！等々)をひとつひとつ解決して、それぞれの事業を軌道に乗せていくのが私の活動です。大変なこともたくさんありますが、加工品製造で得た副収入に喜ぶ女性たち、覚えてたのフランス語で挨拶をする子どもたちの笑顔から私自身もたくさん元気をもらいながら毎日の活動に励んでいます。



ミュージックビデオに合わせて踊る子どもたち

12/22 青年海外協力隊出発報告



JICA(国際協力機構)が実施する青年海外協力隊に、本市出身の新田繁迪(あらたしげみち)さんが、ブータン王国へ2年間派遣されることになりました。同国では小中学校へ配属され、教育省と連携しながら体育の授業を行い、指導案やカリキュラムの作成に協力する予定です。

青年海外協力隊活動通信